

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

鼻中隔矯正術に関する新規矯正手法の検討

2. 研究の対象患者

2025年7月1日～2026年7月1日までの1年間に於いて、当院にて鼻中隔湾曲症に対して鼻中隔矯正術による手術加療を受けた方のうち、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない方

・選択基準

1) 性別不問

2) 手術時の年齢が20歳以上、80歳未満の方

3) 鼻中隔湾曲症に対して手術加療を受けた方

4) 鼻中隔湾曲が鼻棘前方3分の1では正中に位置していながら鼻棘後端では湾曲している方

・除外基準

1) 手術加療において鼻中隔矯正術を受けなかった方

2) その他、研究責任者が研究対象として不適当と判断した方

3. 研究の対象期間

2025年7月1日～2026年7月1日

4. 研究の概要

鼻中隔湾曲症は、鼻の中を左右に隔てている鼻中隔が曲がることで左右の鼻腔の広さに差が生じ、鼻づまり（鼻閉）の原因となる疾患である。鼻中隔湾曲による鼻閉症状を有する患者に対しては、内視鏡を用いた鼻中隔矯正術が一般的に行われている。しかしながら標準的な術式であるkillian法では、湾曲が鼻の入り口に近い前方（尾側端）にある場合には十分な矯正が困難なことがある。このような症例に対しては、鼻中隔軟骨を鼻棘（Anterior Nasal Spine : ANS）から切り離し、余剰軟骨を切除・形成する方法（Hemitransfixion法）などが行われているが、鼻中隔の支持性が低下することで、鼻先の高さや鼻柱と上唇の角度が変化する可能性が指摘されている。そこで我々は、ANS前方では鼻中隔軟骨が正中に固定されている一方、ANS後方で尾側湾曲を認める症例（従来であればHemitransfixion法が適応されていた症例）に対し、Killian法と同じ切開部からアプローチし、鼻中隔軟骨を鼻腔底へ垂直マットレス縫合で固定する新しい矯正術式を考案した。本研究では、この術式を受けた鼻中隔湾曲症患者を対象に、診療録およびCT画像を用いた後ろ向き研究を実施する。術前後のCTによる鼻腔面積の変化と鼻閉症状の改善を主要評価項目とし、本術式の有効性および安全性を検討する。

5. 研究実施予定期間

2026年7月22日～2028年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕：生年月日、年齢、性別、既往歴、合併症、最終診察日、観察項目、手術名および手術日、術後観察日、症状

〔血液学的検査〕：RBC、Hb、WBC、Neu(%)、Lym(%)、Eos(%)

〔血液生化学的検査〕：BS、HbA1c、LDL、HDL、T-CHO、TG、BUN、Cre、eGFR、AST、ALT、LDH、CK、CRP、TP、ALB、Na、K、Cl、Ca

〔検査〕CTにおける鼻腔内面積、鼻中隔湾曲角度

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後ろ向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究対象者（又は代諾者）個々に結果説明することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先） 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 岸本 成司

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)